



常設展示作家の紹介

たかた ひろあつ

高田 博厚 (1900 ~ 1987)

石川県七尾市に生まれる。18歳で上京し、高村光太郎に出会い独学で彫刻を始める。1931年に渡仏し、以降27年近く主にパリに暮らし作品を制作した。1957年帰国。鎌倉にアトリエを構え塑像の制作に励むかたわら、執筆活動も精力的におこなった。

みや よしへい

宮 芳平 (1893 ~ 1971)

新潟県堀之内町(現魚沼市)で生まれる。東京美術学校在学中に森鷗外の知遇を得、鷗外の短編小説『天龍』に画学生M君として描かれるなどその才能が認められ、将来を嘱望された。諏訪に美術教師として赴任、美の教育に務めた。

おくむら みつまさ

奥村 光正 (1942 ~ 1997)

南安曇郡豊科町(現安曇野市)に生まれる。中学時代から油絵に親しみ、東京藝術大学の油画科に進む。30歳で結婚すると同時にパリに渡り、以後突然の死が襲った晩年まで精力的に制作を続けた。55歳という若さでパリで逝去。

こばやし くに

小林 邦 (1906 ~ 1990)

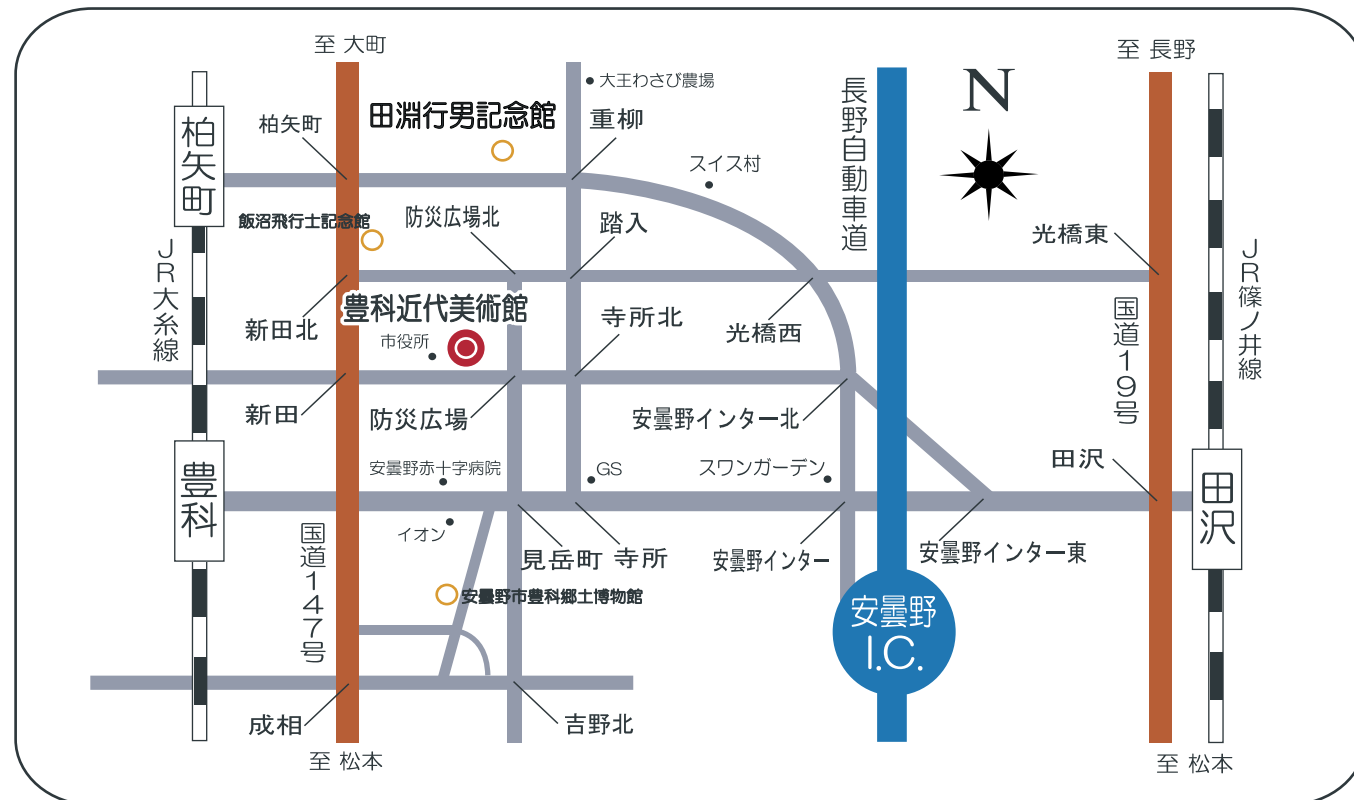
南安曇郡穂高町(現安曇野市)に生まれる。18歳で画家を志して上京、川端画学校で小杉未醒(後の小杉放庵)に師事。20代より新文展などに作品を発表して行く。戦後は日展に出品、その後国画会展を中心に発表を続けた。

しいぬま かずみち

飯沼 一道 (1940 ~ 2008)

南安曇郡豊科町(現安曇野市)に生まれる。1966年東京藝術大学大学院を卒業し、長野県高等学校教員として採用される。中信美術会や信州美術会の発展にも尽力。また、高校美術教諭として多くの学校で美術を教えた。

当館は平成4年の開館。ロマネスク様式、中世ヨーロッパ修道院風の外観が特徴です。主な収蔵作品は、日本の近代彫刻の巨匠、高田博厚の彫刻作品約200点と、森鷗外ゆかりの画家、宮芳平の絵画作品約2000点。これらは作家が生涯に残した作品のうち、現存するものの大半で、その常設展示はいわゆる「一点豪華主義」ではなく、作家の全体像を提示することを目指しています。また、安曇野出身の作家として奥村光正、小林邦、飯沼一道などの絵画作品も若干数を常設展示しています。ほか、辻野弘之・井上直久・西田幾太郎・大島秀信・木村辰彦・イザベル=ルオー・曽宮一念・清水多嘉示・梅原龍三郎・石井柏亭・山下新太郎などの作品も収蔵しています。広い敷地には500種1000本の四季咲きのバラ園が無料で開放されており、市民の憩いの場として親しまれています。



■長野自動車道をご利用のお客様

- ・安曇野(豊科)インターを降りましてすぐの「安曇野(豊科)インター」信号を左折、約1km直進、「寺所(てらどころ)」信号を右折、約300m直進、「寺所北」信号を左折、約500m直進、向かって右手に美術館駐車場。

■一般道国道147号をご利用のお客様

- ・松本方面より、「新田(しんでん)」信号を右折、約300mで向かって左手に美術館駐車場。
- ・大町・穂高方面より、「新田」信号を左折、約300mで向かって左手に美術館駐車場。

■一般道国道19号をご利用のお客様

- ・長野方面より、「光橋(ひかるばし)東」信号を右折、約1.2km直進、「光橋西」信号を左折、1.4km直進、「安曇野(豊科)インター北」信号を右折、約1.5km直進、向かって右手に美術館駐車場。
- ・松本方面より、「田沢」信号を左折、約2.6km直進、「寺所」信号を右折、約300m直進、「寺所北」信号を左折、約500m直進、向かって右手に美術館駐車場。



Azumino Municipal Museum of Modern Art, TOYOSHINA

安曇野市豊科近代美術館

プリントアウト版パンフレット

〒399-8205 長野県安曇野市豊科5609-3

電話 (0263) 73-5638 FAX 73-6320

<http://www.azumino-museum.com/>

【休館日】月曜日、祝日の翌日 【開館時間】9:00~17:00 (入場は16:30まで)

【入館料】大人500(400)円/大高生300(200)円/中学生以下・障害者手帳をお持ちの方免除

※()は20名以上の団体料金 ※入館料は企画によって変更することがございます。

豊科駅より徒歩10分 無料駐車場 約100台